



三糸第二砂防ダム



砂防対策工法による整備区



自主防災組織による水防訓練

日ごろの「防災の心構え」は大丈夫ですか？

もしもの災害に備えて、日ごろから「防災意識」を持っているか否かで、被害の状況に差がでます。災害発生時に自分や家族を守るためにはどうすれば良いのか、非常時に対する危機感を日常的に持つことが、家庭内防災の第一歩を踏み出すことになり、被害を最小にとどめることになります。

大雨に注意 !!

梅雨や台風シーズンは、必ずといっていいほど大雨が降り、人命や家屋・交通機関等に多くの被害をもたらします。

本市では、5年に1回程度^①の大雨(50mm/時間)による浸水をなくし、また計画降雨^②以上の降雨があった場合でも、浸水被害を少なくするために下水道事業を進めているところです。

しかしながら、近代の都市化により、降った雨が地面にしみ込まずに下水管に流れ込む量^③が増え、これに対応した整備を行う必要があるため、長い期間が必要とされています。市民のみなさんのご理解を頂きますようお願いいたします。

過去の大雨降雨量(mm/分間)

順位	50分間	60分間	120分間	降雨年
1	85.5	100.5	138.0	平成元年9月豪雨
2	75.1	87.7	96.2	昭和13年阪神大水害
3	70.8	75.8	133.5	昭和42年7月豪雨
4	67.0	76.0	90.0	平成9年7月豪雨
5	55.5	56.5	60.0	昭和53年9月豪雨

過去の大雨降雨強度(mm/時間換算)

順位	50分を1時間に換算	60分を1時間に換算	120分を1時間に換算	降雨年
1	102.6	100.5	69.0	平成元年9月豪雨
2	90.1	87.7	48.1	昭和13年阪神大水害
3	85.0	75.8	66.8	昭和42年7月豪雨
4	80.4	76.0	45.0	平成9年7月豪雨
5	66.6	56.5	30.0	昭和53年9月豪雨

大正13年から平成13年までの降雨
神戸海洋気象台・芦屋市雨量計データによる。

平成9年7月13日豪雨(80.4mm/時間換算)では、床下浸水以上の浸水区域はありませんでした。

注1)：本市では、最長の流達時間^①が約50分です。50分間あたりの降雨量を1時間に換算すれば、50mm/時間となります。

注2)：流達時間とは、降雨が排水区^②の最遠点から河川・ポンプ場に流下してくるまでの時間のことです。

注3)：降雨雨量に対して、下水道管に流入する水量の比のことを、流出係数^③といいます。

下水道の役割

下水道管には、汚水を流す汚水管と雨水を流す雨水管、汚水と雨水を同じ管で流す合流管があります。

汚水管の大きさは、水道の使用量により決められています。汚水管に雨水を流せば、雨天時に汚水マンホールが溢れてしまいます。また雨水管に洗濯水や建築工事用のペイント・モルタルを流しますと、放流先の河川の環境を破壊します。管の役割を守り正しい使用をお願いいたします。

雨水浸透施設の普及は安全なまちづくりに役立ちます。

本市では、流出係数を0.5とし雨水整備を行っています。近年、都市化により、屋根の面積が増加し、緑地の面積が減少しています。その結果、降った雨が一度に勢いよく市街地に流れてくるようになってきました。雨水浸透施設は、雨水の流出量や流下速度をゆるやかにし、ときとして起こる大雨による浸水被害を減少させ、安全なまちづくりに貢献します。また、地下への雨水浸透により大地を潤して、緑あふれる環境づくりに役立ちます。宅内雨水樹の浸透化、駐車場・ガレージの浸透式舗装など、ご協力をお願いいたします。

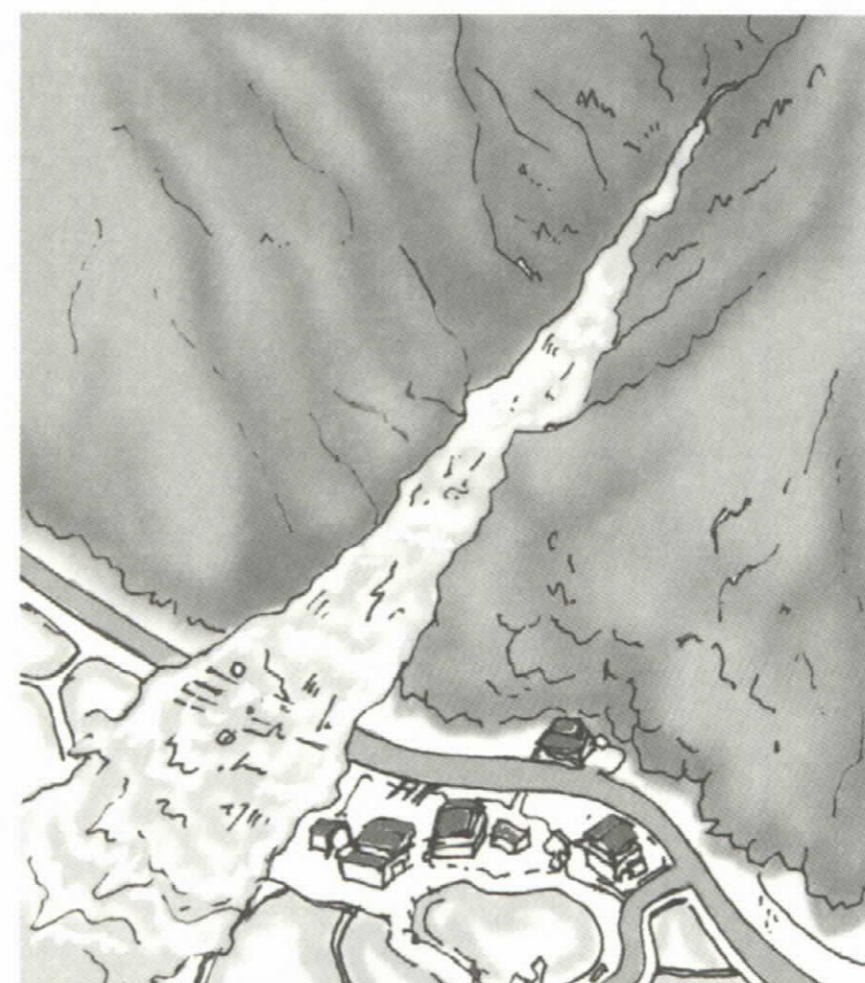
大雨・長雨は土砂災害に注意

土砂災害と雨量の間には密接な関係があります。地面にしみ込んだ水の量が多いほど発生する数や規模が増えます。また、短時間に集中して降る場合に発生しやすく、規模も大きくなります。特に、土石流は短時間の強い雨が引き金になります。

がけ崩れのほとんどは、梅雨や台風の時期に発生しています。大雨や長雨により地面に大量の水がしみ込み、弱くなった斜面が崩れるためです。雨量だけでなく、斜面の傾き、地質、植物の有無なども関係します。大雨や長雨には注意しましょう。また、雨が上がった後で災害が起こることもありますので、十分な警戒が必要です。

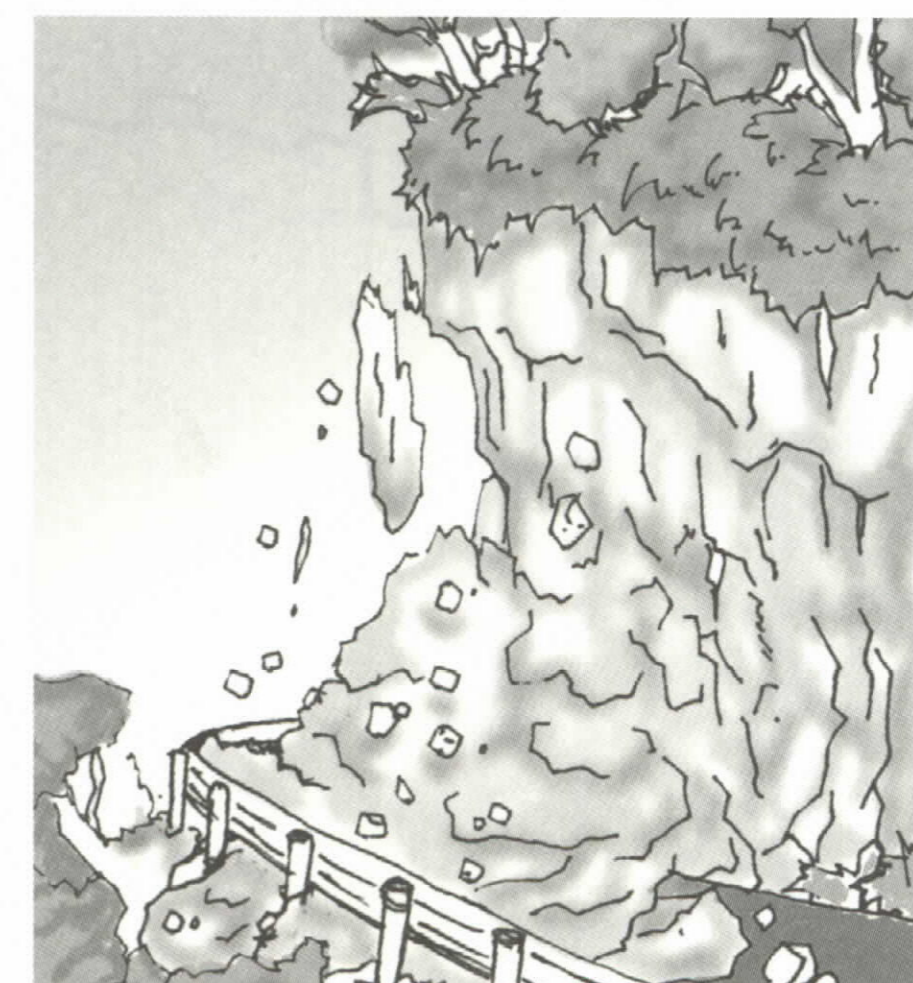
土砂災害の種類

土石流



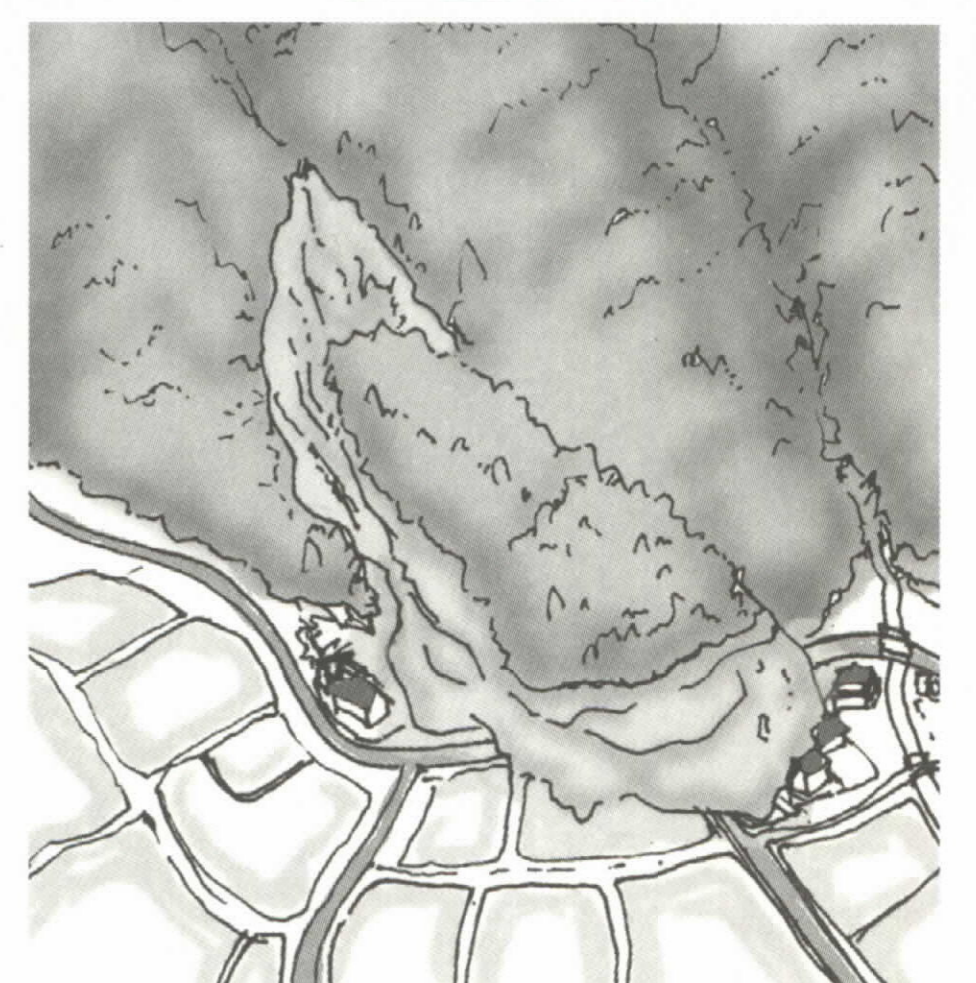
谷や斜面にたまった土砂が豪雨によって水と共に一気に流れ出す。

がけ崩れ



雨水がしみ込み弱くなった斜面が、突然、瞬時に崩れ落ちる。

地すべり



比較的ゆるやかな斜面が地下水の影響で滑り落ちる。

前兆現象

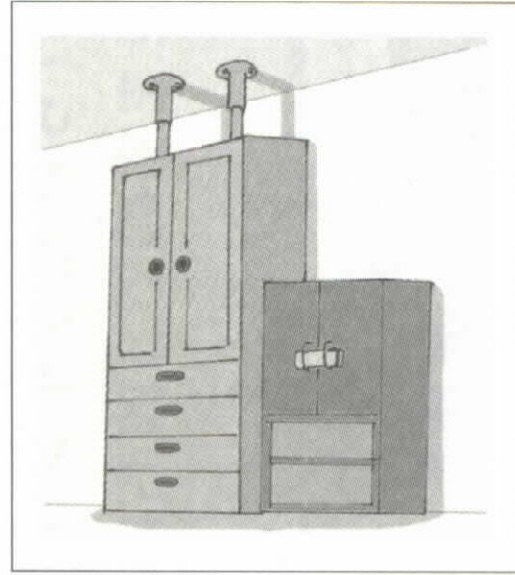

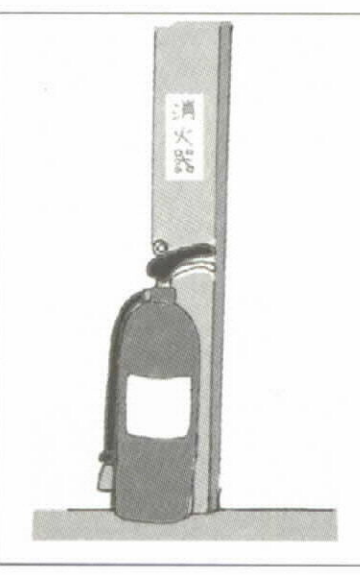
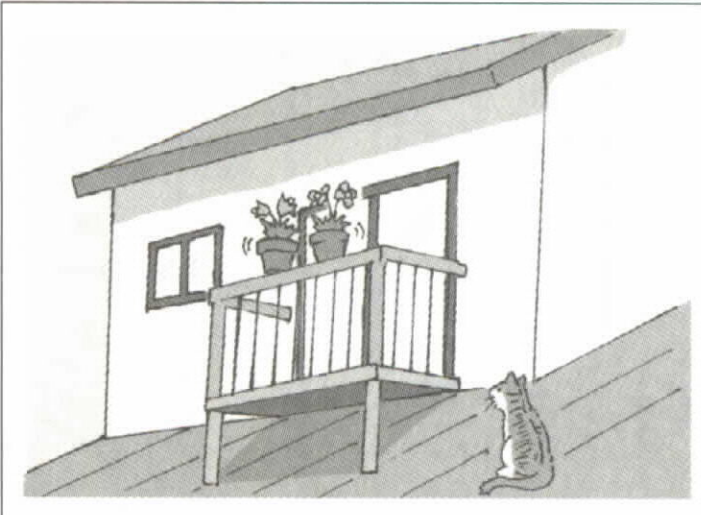
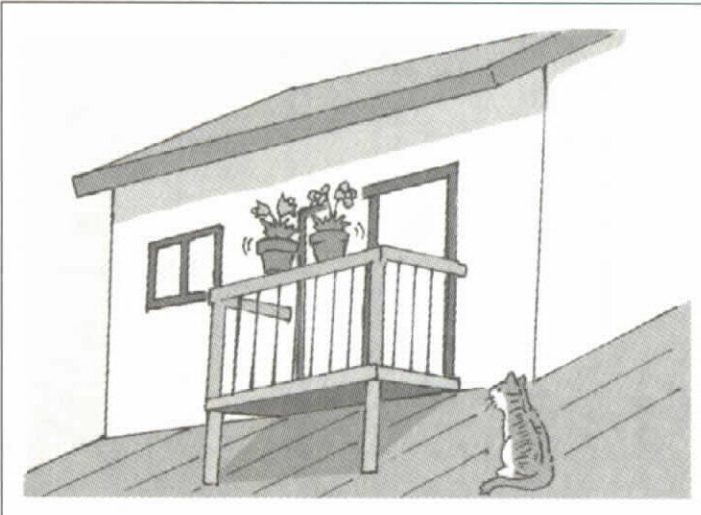
- 山鳴りがする。
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる。
- 川が濁ったり流木が流れる。
- がけからの水が濁る。
- がけに亀裂が入る。
- がけから小石が落ちてくる。
- 斜面にひびわれが入る。
- 地鳴りが聞こえる。
- 斜面から水がふき出る。

地震・火災・風水害に備えて (命を守る・家を守る)

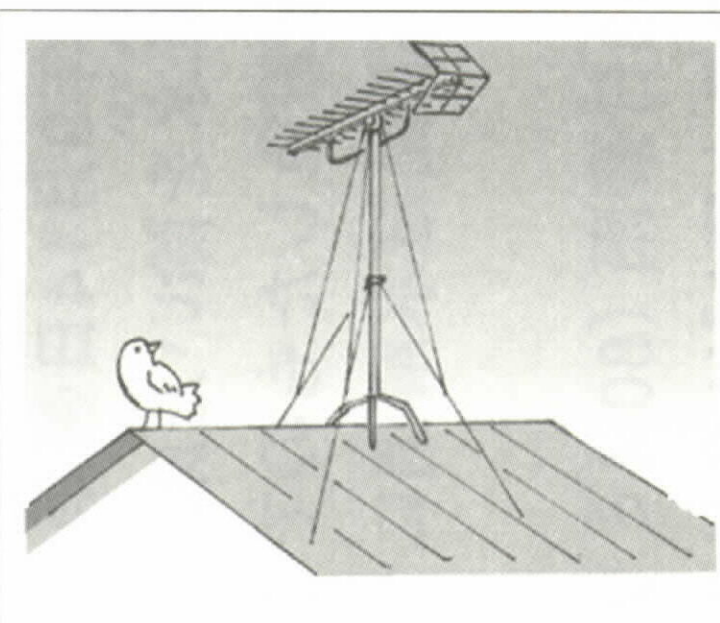
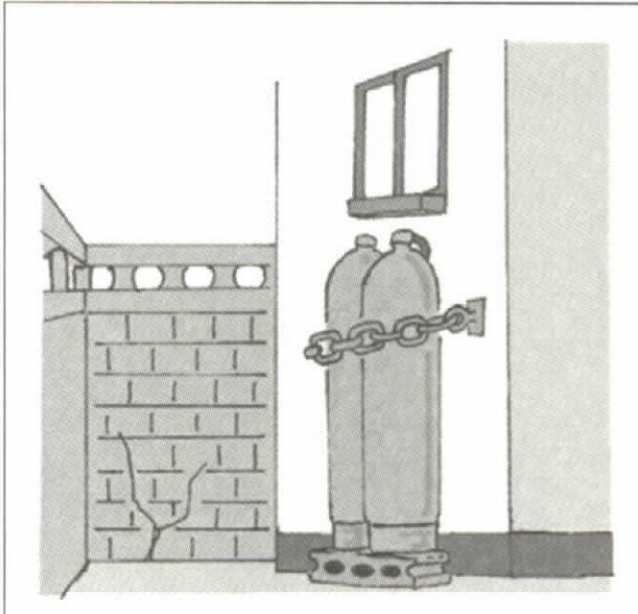
チェック

災害が実際に起きたとき、
被害を最小におさえるために。

屋内

- タンス・調度品など、大型で重い家具には、転倒防止措置をする。
- 出入り口付近には家具を置かない。
- ガスこんろの安全装置（元栓）を確認し、火元のまわりには燃えやすいものを置かない。
- 寝室の枕元には懐中電灯や、いざというときに履くスリッパを常備する。通路や廊下に通行を妨げるものは置かない。
- 風呂の残り湯はすぐに捨てないでためておく。
- 非常時に備えて、消火器の使用期限を確認する。
- 食器棚・扉や窓のガラスには飛散防止フィルムをはる。
- 暖房器具は耐震自動消火装置を確認し、カーテンなどの近くに置かない。
- 鉢やプランタなど、落下しやすいものはベランダに固定するか屋内へ取り込む。

屋外

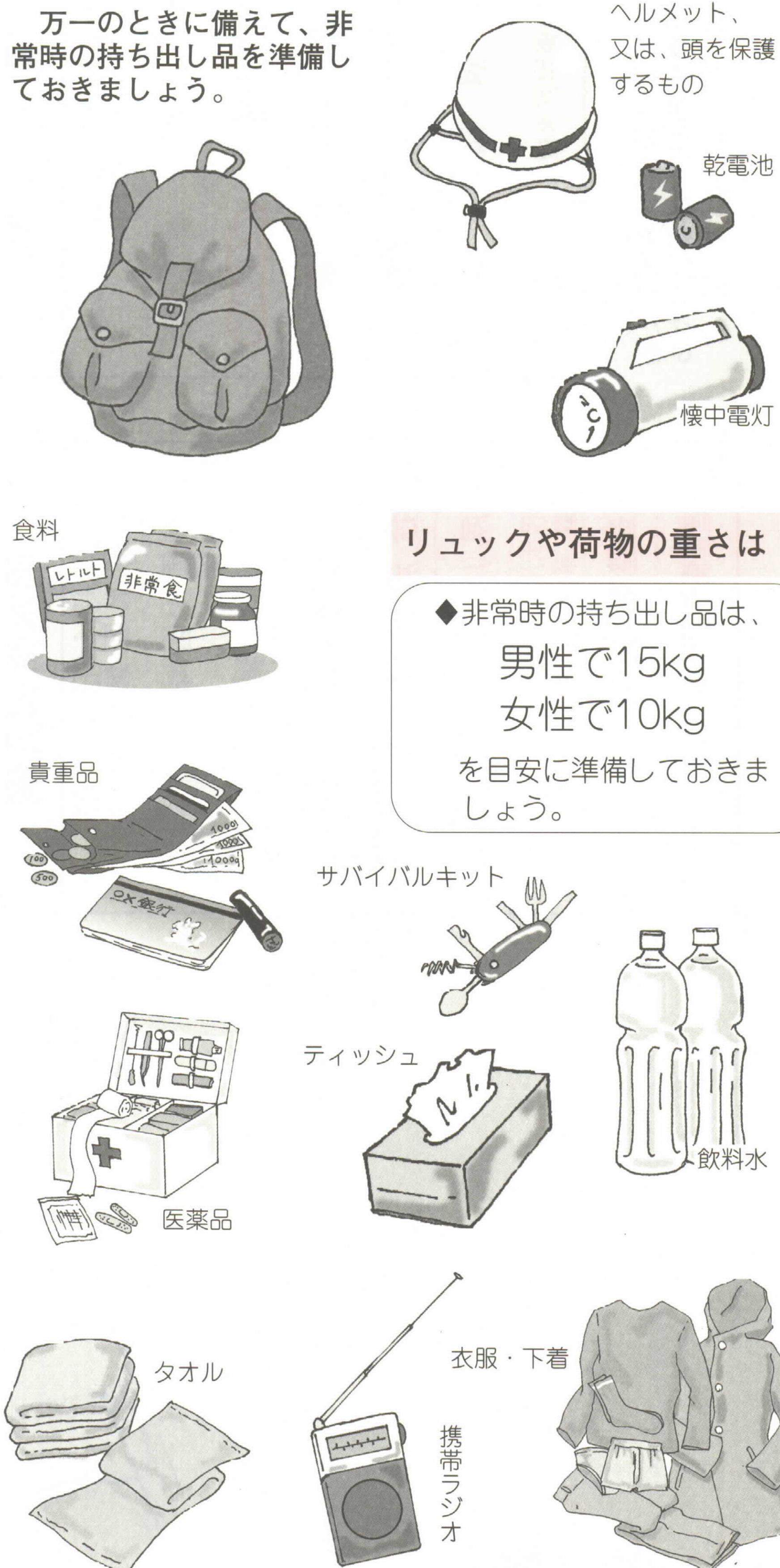
- 屋根に設置したテレビなどのアンテナはしっかりと固定されているか確認する。
- 庭木などには支柱を配し、付近の樹木で腐っていたり折れている枝は切り取っておく。
- 家のまわりやガレージなどには、燃えやすいものを放置しないように注意する。
- 屋外に設置しているガスボンベの配管にゆるみがないか、留め金やチェーンに損傷がないか確認する。
- 屋根瓦や、塀・門柱などにひび割れや破損箇所がないか確認し、基礎などがグラついている場合は普段から補修しておく。

新しく正しい気象情報に注意して！！

- ◆台風や大雨については、テレビやラジオで進路や勢力などを確認して、適切に対処しましょう。

非常時持ち出し品の準備を

万一のときに備えて、非常時の持ち出し品を準備しておきましょう。



リュックや荷物の重さは？

◆非常時の持ち出し品は、
男性で15kg
女性で10kg
を目安に準備しておきましょう。

避難所一覧表

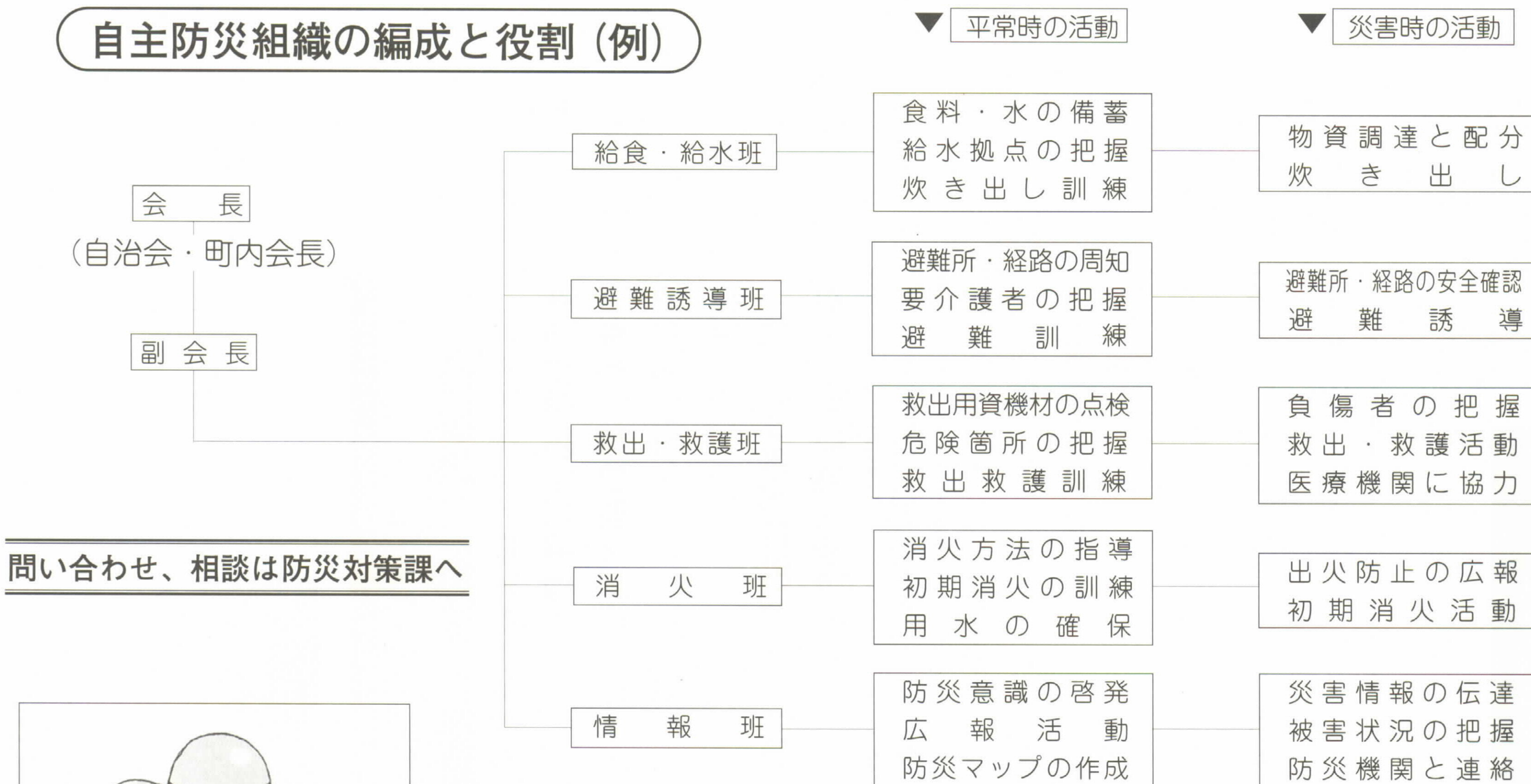
名称	所在地	電話番号
奥池集会所	奥池南町34-4	32-0763
山手中学校	三条町39-10	32-1122
西山幼稚園	西山町22-15	32-5457
前田集会所	前田町8-17	23-3899
※山手小学校	山手町8-3	32-1113
市立芦屋高等学校（体育館のみ）	劔谷9	32-1131
大原集会所	大原町20-2	38-7782
市民センター	業平町8-24	31-4995
上宮川文化センター	上宮川町10-5	22-9229
朝日ヶ丘小学校	朝日ヶ丘町10-10	32-1115
朝日ヶ丘集会所	朝日ヶ丘町30-9	23-4896
※岩園小学校	岩園町23-41	32-1114
岩園保育所	岩園町2-18	31-0335
芦屋大学附属中・高等学校	六麓荘町16-18	31-0666
翠ヶ丘集会所	翠ヶ丘町9-15	22-2475
※精道小学校	精道町8-25	32-1111
市立体育館	川西町15-3	31-8228
茶屋集会所	茶屋之町8-20	32-1232
竹園集会所	竹園町5-6	22-2484
伊勢幼稚園	伊勢町13-14	31-8313
宮川小学校	浜町1-9	32-1112
県立芦屋高等学校	宮川町6-3	32-2325
小槌幼稚園	打出小槌町15-7	22-4885
海技大学校	西蔵町12-24	38-6202
打出浜小学校	新浜町8-2	23-4581
※精道中学校	南宮町9-7	32-1121
春日集会所	春日町13-17	32-5377
※浜風小学校	浜風町1-1	23-4591
浜風幼稚園	浜風町1-2	31-1505
浜風集会所	浜風町3-2	38-0960
新浜保育所	新浜町1-1	32-0410
潮見小学校	潮見町1-2	34-0721
潮見中学校	潮見町20-1	34-1601
潮見集会所	潮見町7-1	32-4359
合計	34か所	※印は救護所設置避難所を示す。

安全で安心して暮らせる地域をめざして

安全で安心して暮らせる地域をめざして 自主防災組織をつくりましょう

「自分たちのまちは自分たちで守ろう」という地域防災活動の効果をも高めるためには、それぞれの家庭で、防災に対する日ごろの備えを行い、いざというときの心構えを話し合うことだけでなく、近所の人たちと協力しあい、自主防災組織をつくるのが大切です。
災害に強い地域をつくりましょう。

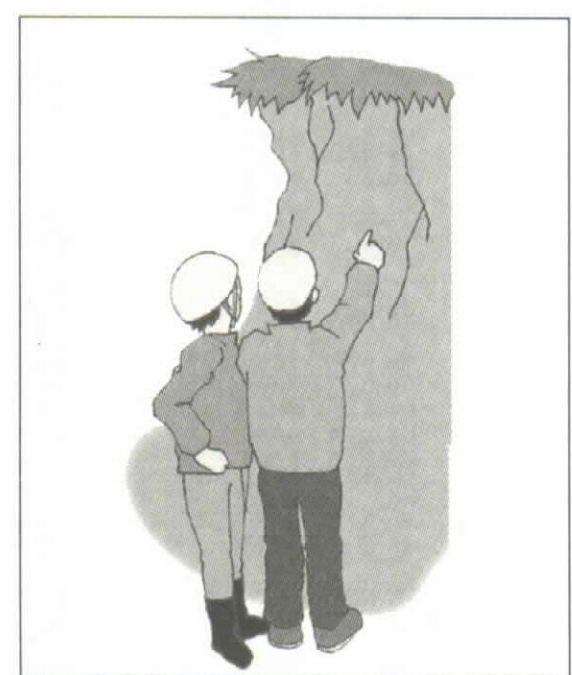
自主防災組織の編成と役割（例）



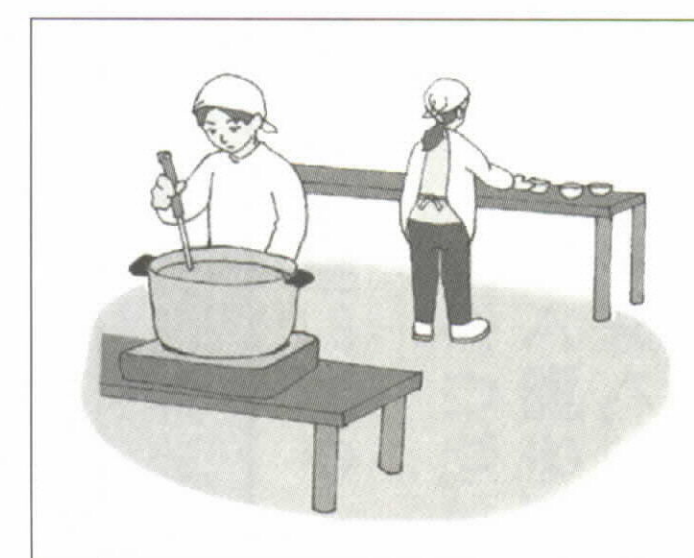
問い合わせ、相談は防災対策課へ



危険箇所の把握や、地域に密着した防災マップの作成などは、日ごろの地域の自主防災活動の貴重な財産といえます。



がけ崩れなど危険な箇所は、規模が小さくても地域みんなが常に意識して観察します。



いざという時は近所の人たちと力を合わせましょう。息の合った地域の防災活動に勝るものではありません。



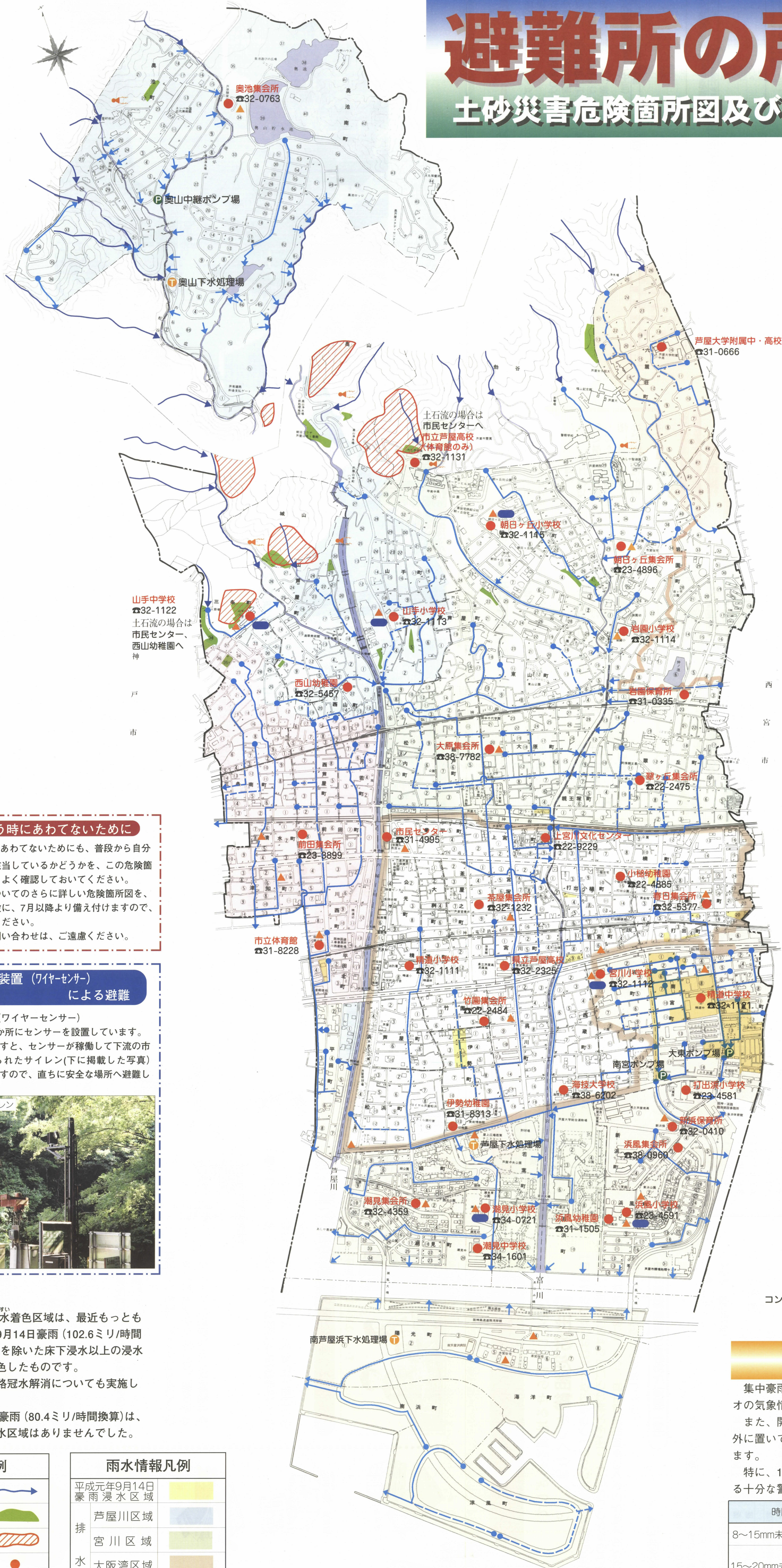
防災倉庫の資機材は、いざというとき役立つように、日ごろから点検・訓練が必要です。



避難訓練

避難所の所在地

土砂災害危険箇所図及び浸水情報マップ



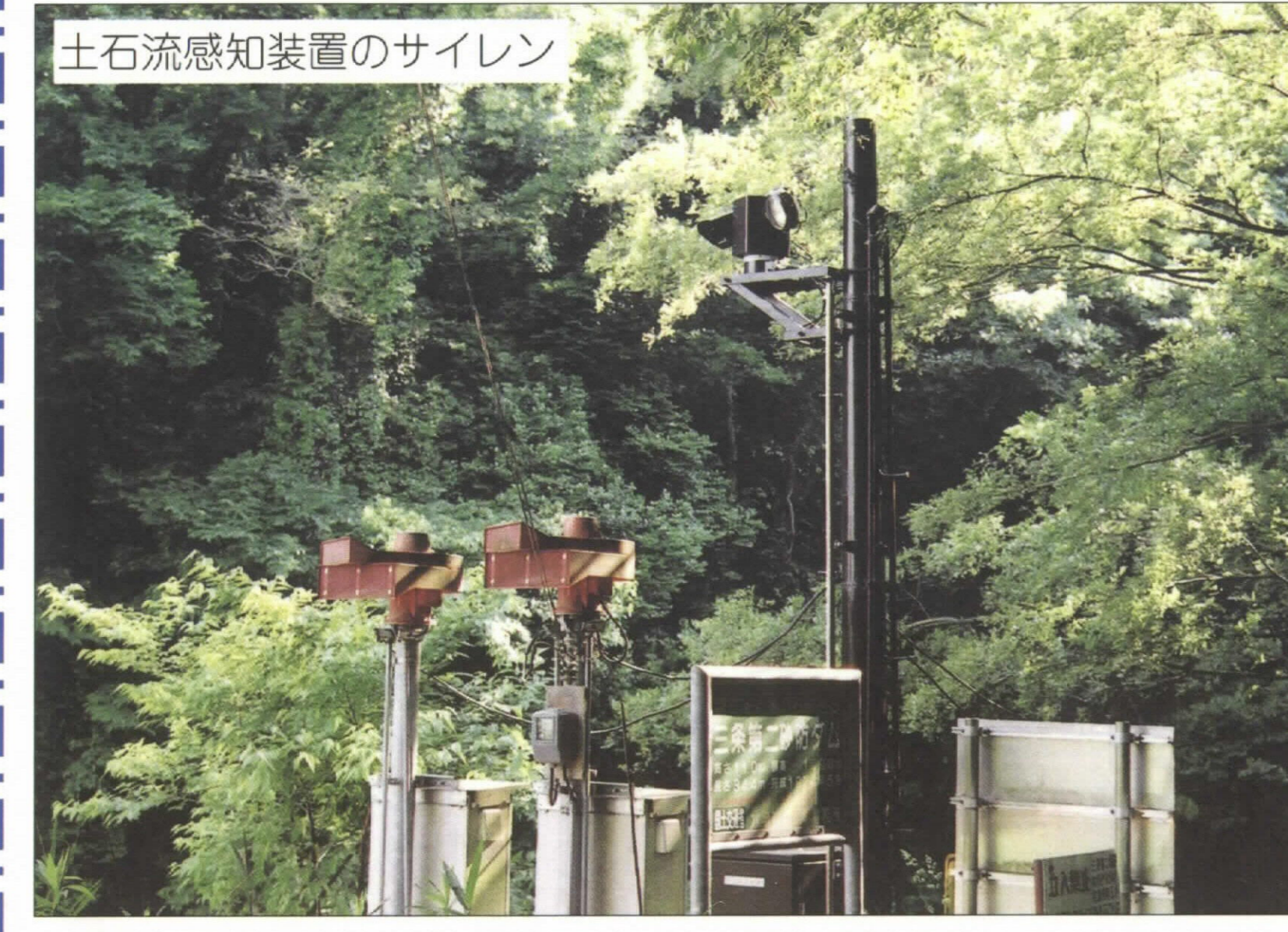
西宮市

いざという時にあわてないために

災害が発生した時あわてないために、普段から自分の家が危険地域に該当しているかどうかを、この危険箇所図を参考にして、よく確認しておいてください。
また、山沿いについてのさらに詳しい危険箇所図を、お近くの市公施設に、7月以降より備え付けますので、あわせて確認してください。
なお、電話での問い合わせは、ご遠慮ください。

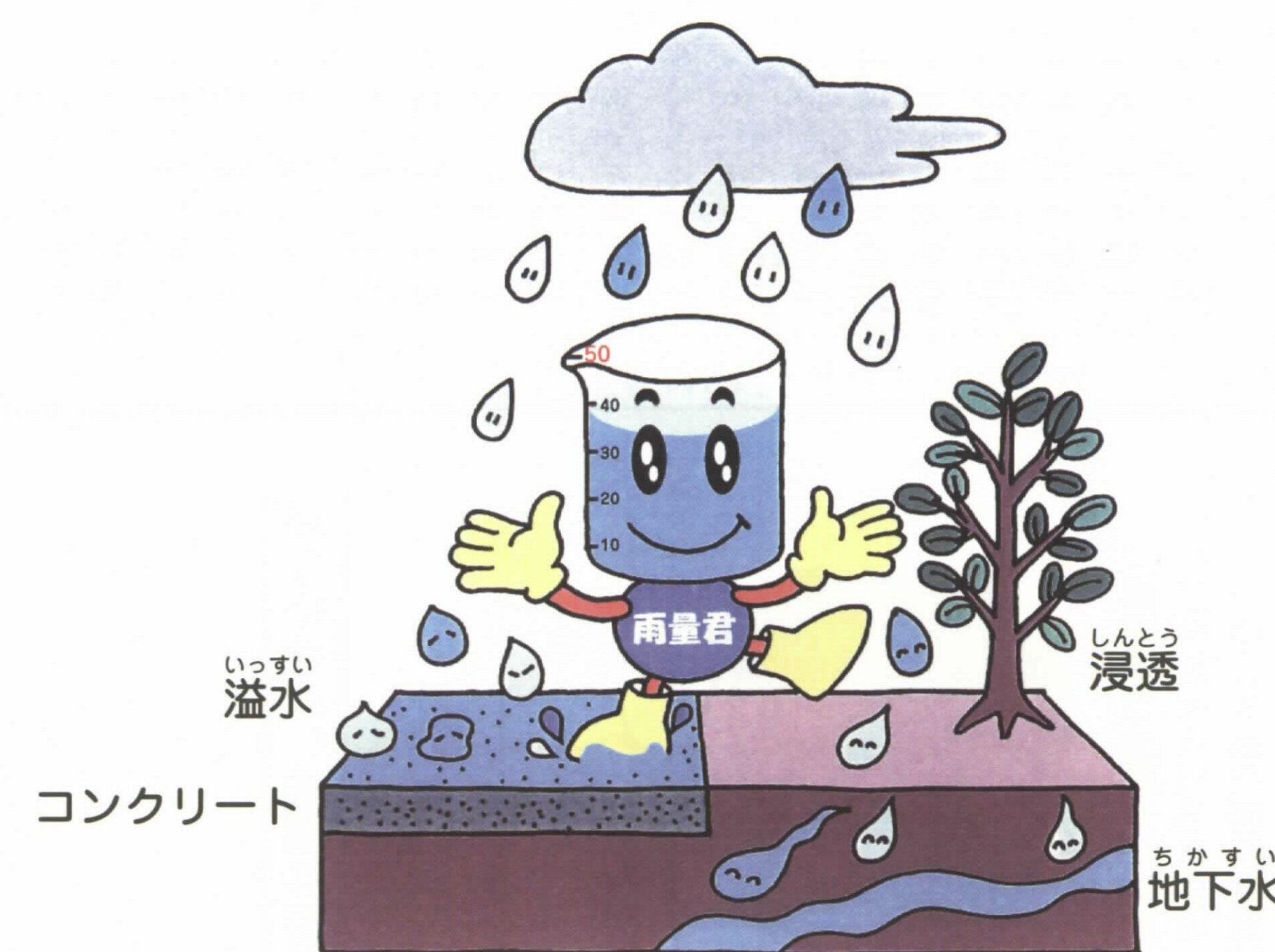
土石流感知装置（ワイヤーセンサー）による避難

○土石流感知装置（ワイヤーセンサー）
特に危険な溪流7か所にセンサーを設置しています。土石流が発生すると、センサーが稼働して下流の市街地付近に設けられたサイレン（下に掲載した写真）で危険を知らせますので、直ちに安全な場所へ避難してください。



この **しんすい** 浸水着色区域は、最近もっとも強かった平成元年9月14日豪雨（102.6ミリ/時間換算）で、道路冠水を除いた床下浸水以上の浸水があった街区を着色したものです。
雨水整備は、道路冠水解消についても実施しております。
平成9年7月13日豪雨（80.4ミリ/時間換算）は、床下浸水以上の浸水区域はありませんでした。

人と自然にやさしい 雨水対策



雨の降り方に注意しましょう。

集中豪雨などによる浸水被害に備えるため、テレビやラジオの気象情報に注意しましょう。
また、開口部と底部の面積が同じ容器を雨の降り始めから外に置いておけば、その深さのミリ数が降雨量の目安になります。
特に、1時間に**50ミリ以上**の大雨の場合には、浸水に対する十分な警戒が必要です。

時間雨量の目安	降雨の状況
8~15mm未満（やや強い雨）	雨の降る音が聞こえる
15~20mm未満（強い雨）	地面一面に水たまりができる 雨の音で話が良く聞き取れない 寝ている人の半数ぐらいが気づく
20~30mm未満（激しい雨）	どしゃ降りになり傘をさしても濡れる
30~50mm未満（非常に激しい雨）	バケツをひっくり返したように降る
50mm以上（猛烈な雨）	滝のように降る

凡	例
土石流危険溪流	
がけ崩れ危険箇所	
山地災害危険箇所	
避難所	
土石流サイレン	
防災倉庫	
飲料消火兼用貯水槽	

雨水情報凡例	
平成元年9月14日豪雨浸水区域	
排水	
芦屋川区域	
宮川区域	
大阪湾区域	
合流区域	
区域	
夙川区域	
傍示川・津知川 森深江区域	
下水道整備済路線	
下水道整備予定路線	

本図は昭和63年4月に作製した基図を、平成10年3月一部修正したものです。

0 500m 1km
地図上の1センチは100メートル